

令和7年度

---

第1回 京都市桃陽病院の今後の在り方に関する検討会  
資料編

---

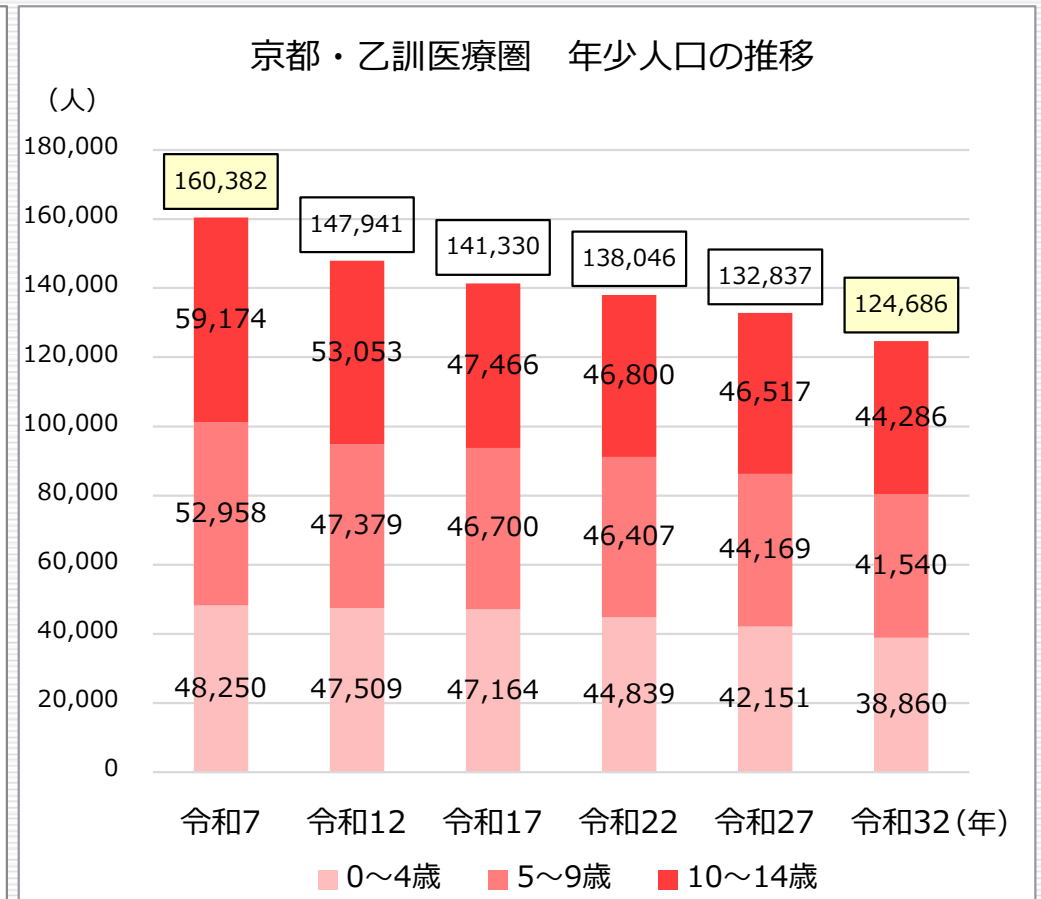
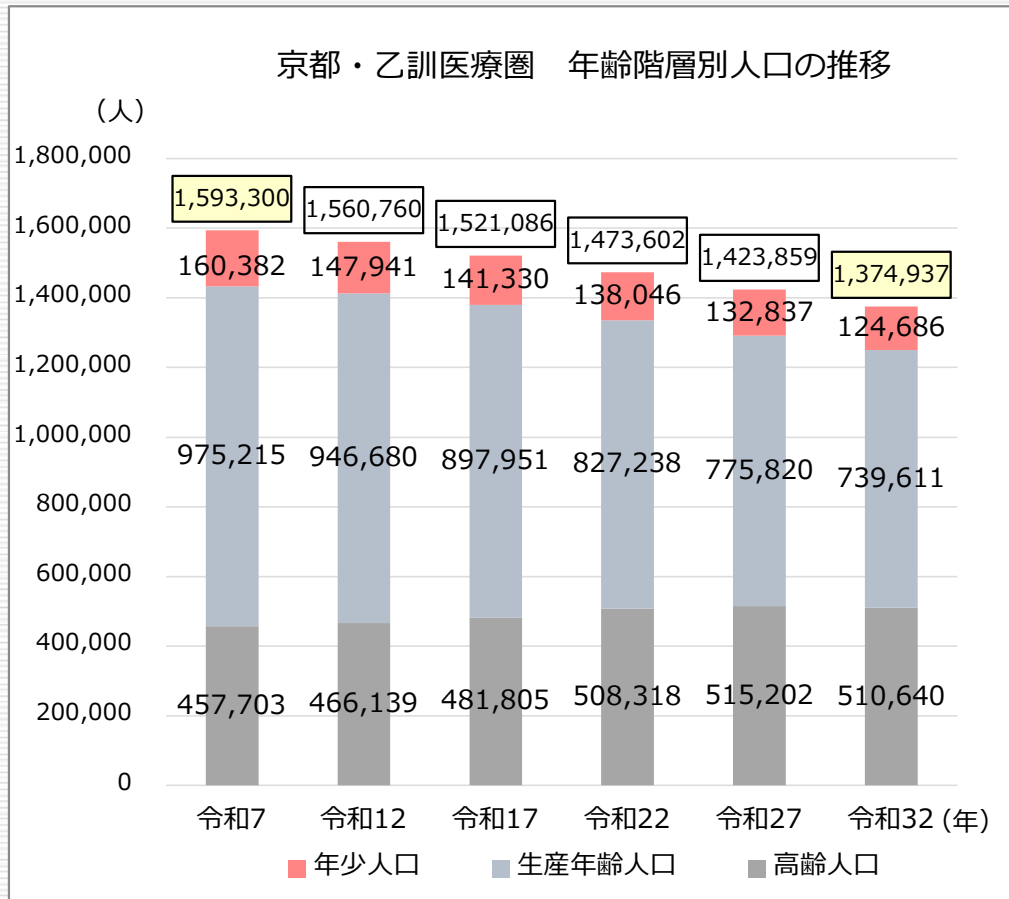
令和8年3月24日（火）

1. 基礎調査・分析の結果報告（外部環境調査）
2. 基礎調査・分析の結果報告（内部環境調査）
3. 基礎調査・分析の結果報告（施設・インフラの分析）

# 1. 基礎調査・分析の結果報告（外部環境調査）

## （1）将来人口推計

- 令和7年時点の京都・乙訓医療圏の人口は1,593,300人、うち0～14歳の人口は160,382人（約10.1%）です。
- 令和32年時点の京都・乙訓医療圏の人口は1,374,937人、うち0～14歳の人口は124,686人（約9.1%）です。
- 25年間で、0～14歳の人口は約**22.3%減少**すると予測されます。



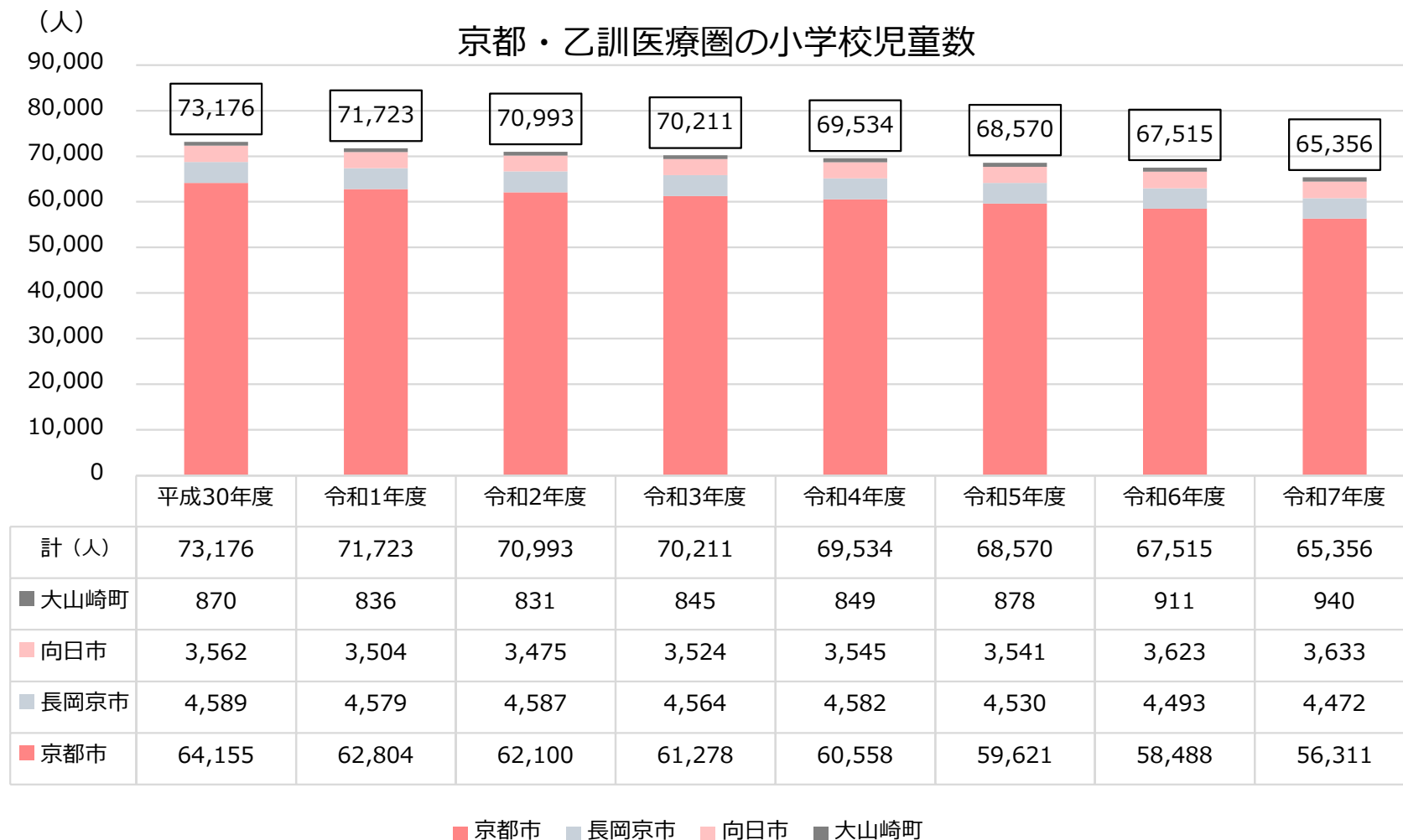
■ 出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 令和5年（2023年）推計」より

■ 出典：令和5年（2023年）患者調査（受療率（人口10万対）、性・年齢階級×傷病大分類×入院-外来・都道府県別（入院）（厚生労働省保健統計室）

# 1. 基礎調査・分析の結果報告（外部環境調査）

## （2）京都・乙訓医療圏における小学校の児童数の推移

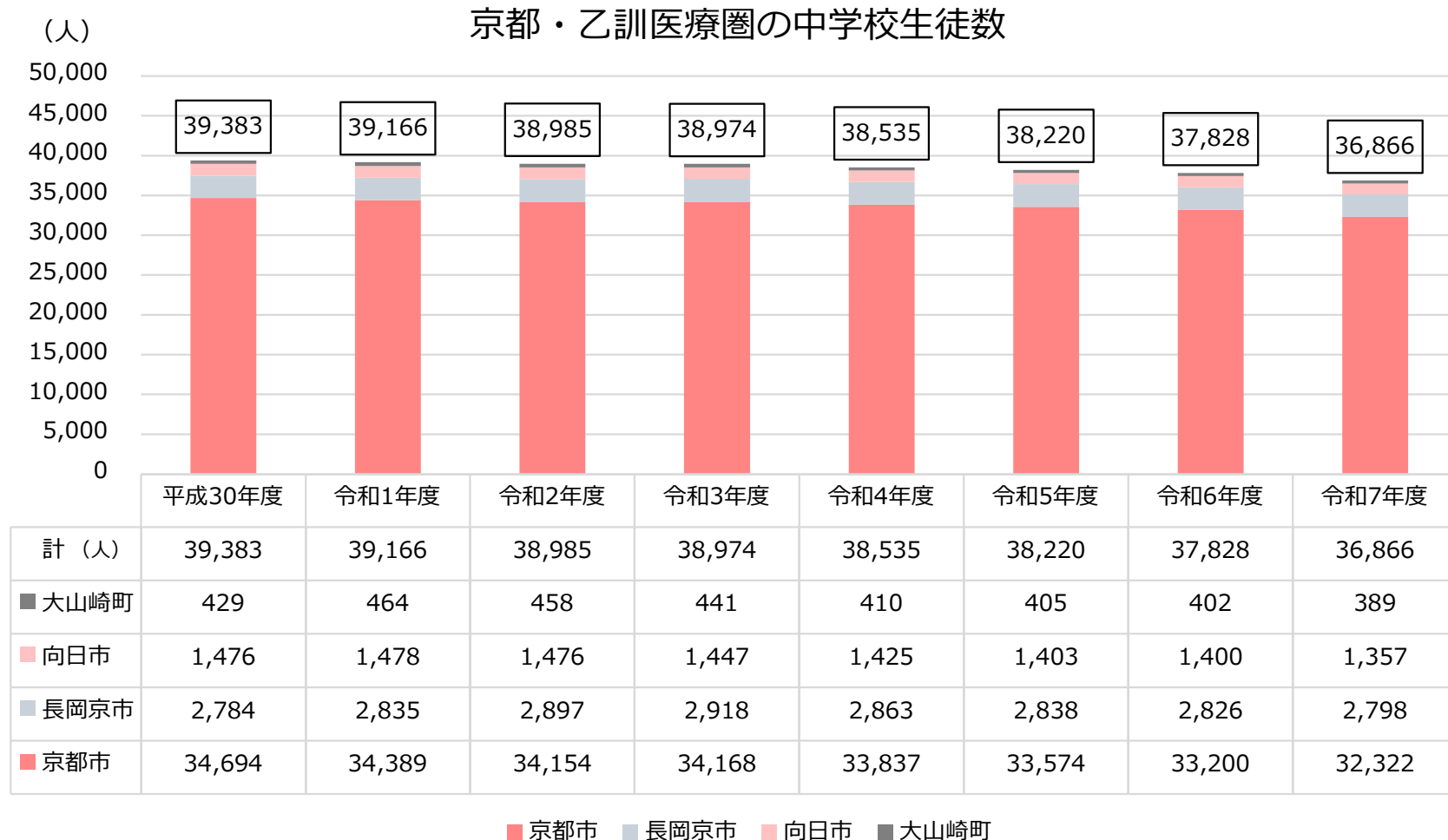
- 京都・乙訓医療圏の**小学校児童数**について、平成30年度では73,176人、令和7年度では65,356人であり、**約10.7%減少**しています。



# 1. 基礎調査・分析の結果報告（外部環境調査）

## （3）京都・乙訓医療圏における中学校の生徒数の推移

- 京都・乙訓医療圏の**中学校生徒数**について、平成30年度では39,383人、令和7年度では36,866人であり、**約6.4%減少**しています。



# 1. 基礎調査・分析の結果報告（外部環境調査）

## （4）0～19歳の療育手帳・精神障害保健福祉手帳所持者の推移

- 全国の0～9歳、10～19歳の療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳の所持数は以下のとおりです。
- 平成28年から令和4年にかけて、人口に対する手帳所持者の割合は、**療育手帳・精神障害者保健福祉手帳ともに増加**しています。

年齢階級	項目	平成28年	令和4年	年齢階級	項目	平成28年	令和4年
0～9歳	療育手帳所持者数（千人）	97	124	0～9歳	精神障害者保健福祉手帳所持者数（千人）	4	16
	人口（万人）	1,025	917		人口（万人）	1,025	917
	人口に占める所持者割合	0.95%	1.35%		人口に占める所持者割合	0.04%	0.17%
10～19歳	療育手帳所持者数（千人）	160	195	10～19歳	精神障害者保健福祉手帳所持者数（千人）	14	41
	人口（万人）	1,155	1,082		人口（万人）	1,155	1,082
	人口に占める所持者割合	1.39%	1.80%		人口に占める所持者割合	0.12%	0.38%

■ 出典：厚生労働省＞「令和4年生活のしづらさなどに関する調査」＞表7年齢階級別精神障害者保健福祉手帳所持者数より

■ 出典：e-stat人口推計＞各月1日現在人口＞月次

# 1. 基礎調査・分析の結果報告（外部環境調査）

## （5）京都府、京都市の療育手帳交付台帳登載状況（18歳未満）

- 京都府における療育手帳交付台帳登載状況（18歳未満）は、平成30年から令和4年にかけて、**約4.0%増加**しています。
- 京都市における療育手帳交付台帳登載状況（18歳未満）は、平成30年から令和4年にかけて、**約10.8%増加**しています。

	重症度	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年
京都府	A（重度）	688	698	680	708	728
	B（中軽度）	1,669	1,672	1,634	1,671	1,722
	合計	2,357	2,370	2,314	2,379	2,450
京都市	A（重度）	1,033	1,048	1,001	987	1,002
	B（中軽度）	5,200	5,377	5,417	5,603	5,905
	合計	6,233	6,425	6,418	6,590	6,907

■ 出典：京都府保健福祉統計第9章社会福祉（令和4年）＞第24表 療育手帳の交付台帳登載状況障害の程度・年齢（2区分）別より

【京都市療育手帳判定要綱より抜粋（重症度分類A（重度）とB（中等度）の分類）】

第4条 この判定による障害の区分及び内容は、次の基準とする。

- 1 発達指数又は知能指数が20以下の場合、障害の区分はa1とし、障害の内容は最重度とする。
- 2 発達指数又は知能指数が21から35であり、かつ、1級又は2級の身体障害者手帳を有する場合は、障害の区分はa2とし、障害の内容は最重度とする。
- 3 発達指数又は知能指数が21から35の場合は、障害の区分はa3とし、障害の内容は重度とする。
- 4 発達指数又は知能指数が36から50であり、かつ、1級・2級又は3級の身体障害者手帳を有する場合は、障害の区分はa4とし、障害の内容は重度とする。
- 5 発達指数又は知能指数が36から50の場合は、障害の区分はb1とし、障害の内容は中度とする。
- 6 発達指数又は知能指数が51から75の場合は、障害の区分はb2とし、障害の内容は軽度とする。
- 7 発達指数又は知能指数が76から89で、判定会議で社会適応能力が低いと認める場合はb2とし、障害の内容は軽度とする。

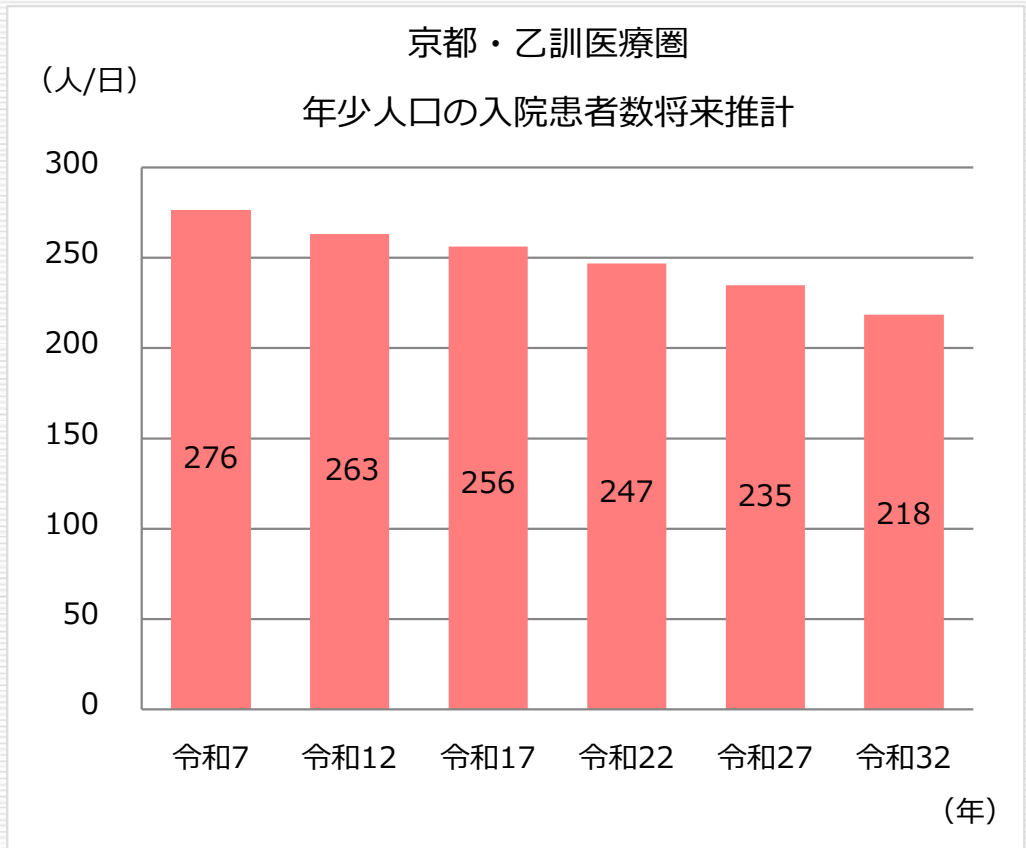
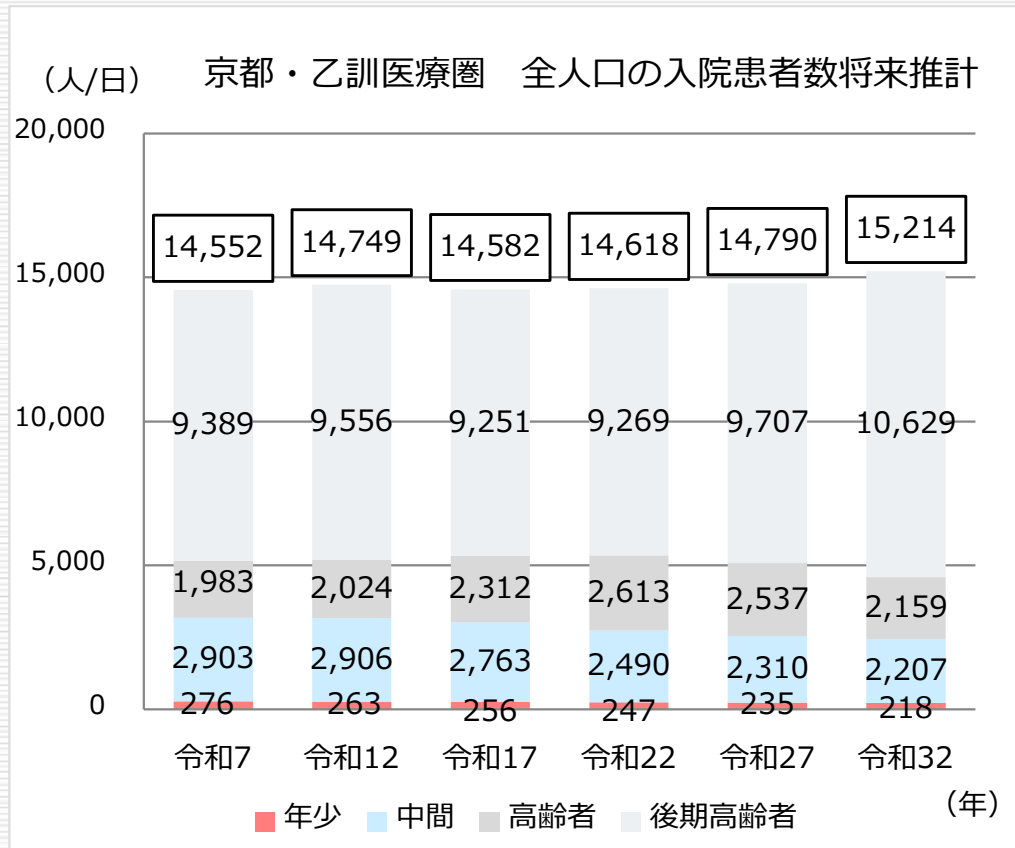
第5条 この判定による障害の程度は、次の基準とする。

- 1 a1からa4の場合はAとする。
- 2 b1からb2の場合はBとする。
- 3 療育手帳にはこの基準により記載し、Aの場合は重度、Bの場合はその他（中軽度）とする。

# 1. 基礎調査・分析の結果報告（外部環境調査）

## （6）京都・乙訓医療圏の入院患者数将来推計

- 京都・乙訓医療圏の将来入院患者数は、令和7年から令和12年にかけて増加し、令和17年で再び減少した後、令和32年にかけて増加することが予測されます。
- 年少人口の将来入院患者数は、令和7年の276人から令和32年の218人にかけて**約21.0%減少**することが予測されます。



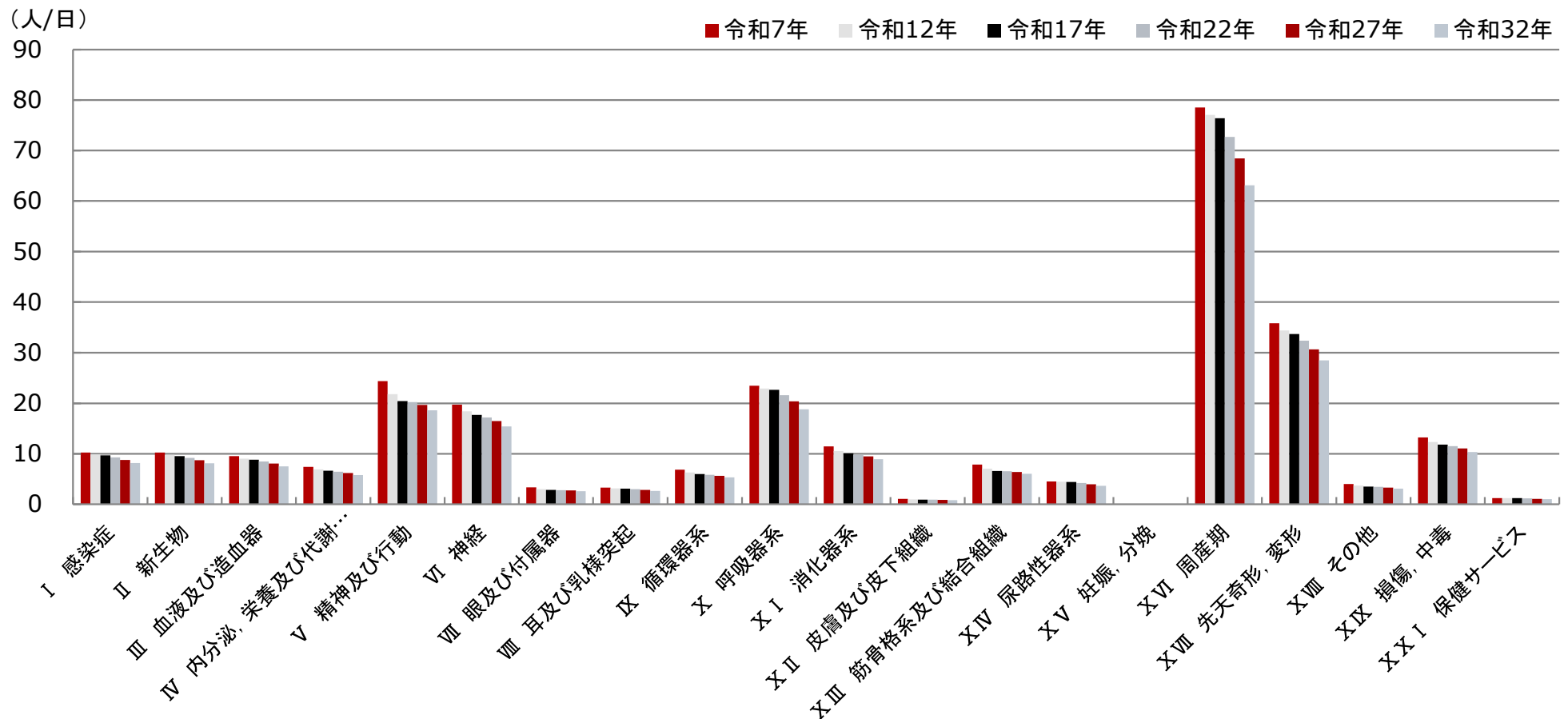
■ 出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 令和5年（2023年）推計」より  
 ■ 出典：令和5年（2023年）患者調査（受療率（人口10万対）、性・年齢階級×傷病大分類×入院-外来・都道府県別（入院）（厚生労働省保健統計室）  
 ■ 小数点1位以下を四捨五入しているため、合計数に差異が生じている場合がございます。

# 1. 基礎調査・分析の結果報告（外部環境調査）

## （7）京都・乙訓医療圏の疾病分類別入院患者数予測（0～14歳）

- 京都・乙訓医療圏の疾病分類別将来入院患者数は、一部の疾患で令和7年から令和12年にかけて微増しますが、それ以降、全ての疾患において**減少、または緩やかに減少**することが予測されます。

【京都・乙訓医療圏 0～14歳 疾病分類別病院入院患者数予測】



■ 出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 令和5年（2023年）推計」より

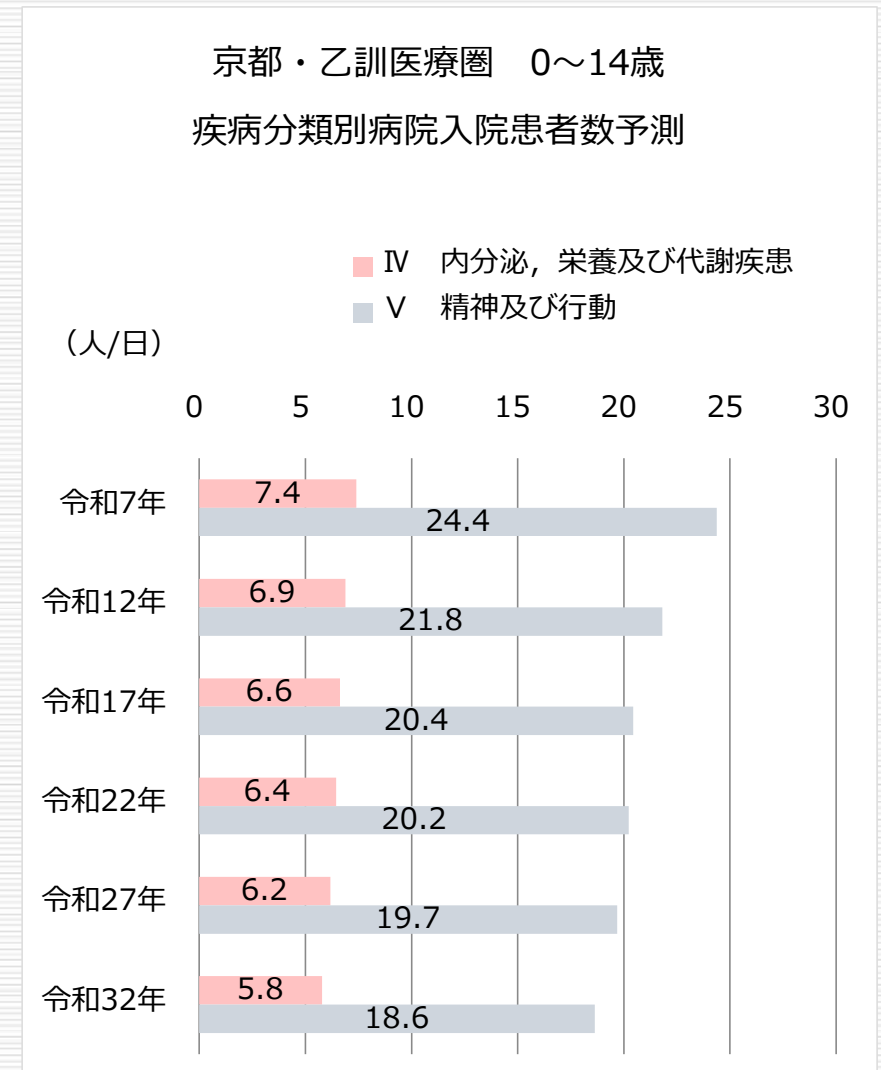
■ 出典：令和5年（2023年）患者調査（受療率（人口10万対）、性・年齢階級×傷病大分類×入院-外来・都道府県別（入院）（厚生労働省保健統計室）

# 1. 基礎調査・分析の結果報告（外部環境調査）

## （7）京都・乙訓医療圏の疾病分類別入院患者数予測（0～14歳）

- 桃陽病院で治療にあたる「**IV内分泌、栄養及び代謝疾患**」、「**V精神及び行動の障害**」の患者数の内訳は以下のとおりで、今後、**減少**が予測されます。

単位：人/日	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	7.4	6.9	6.6	6.4	6.2	5.8
甲状腺障害	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
糖尿病	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
脂質異常症	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	7.4	6.9	6.6	6.4	6.2	5.8
V 精神及び行動の障害	24.4	21.8	20.4	20.2	19.7	18.6
統合失調症、統合失調症障害及び妄想性障害	2.9	2.6	2.4	2.4	2.3	2.2
気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	1.1	1.0	0.9	0.9	0.9	0.8
神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害	13.1	11.7	11.0	10.9	10.6	10.0
その他の精神及び行動の障害	7.3	6.5	6.1	6.1	5.9	5.6



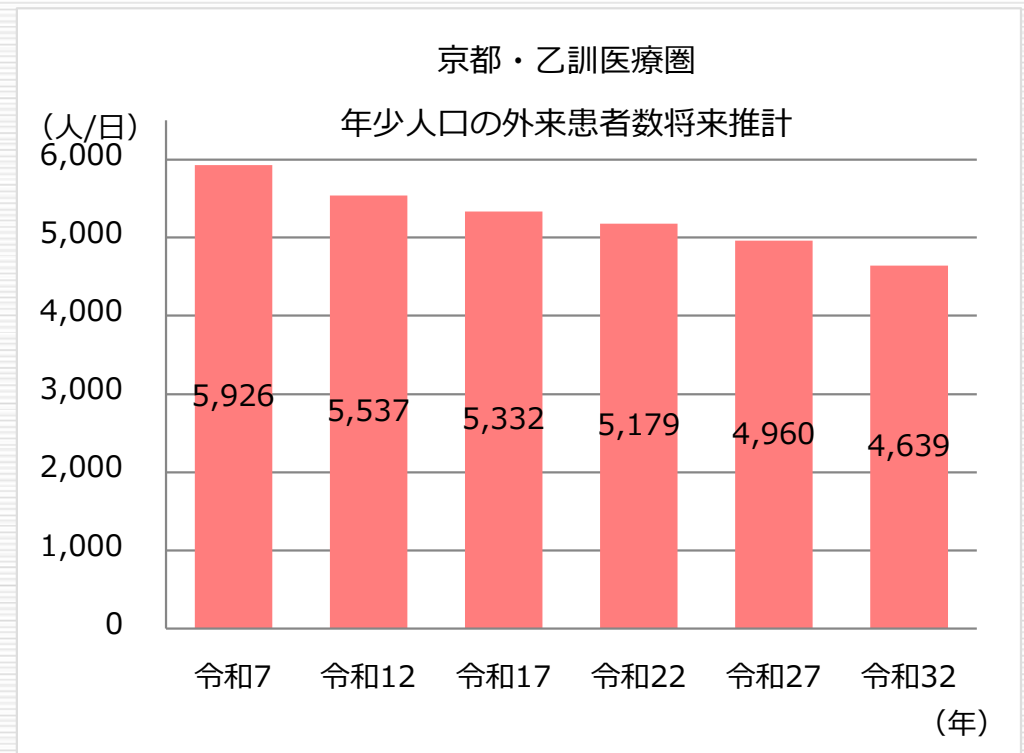
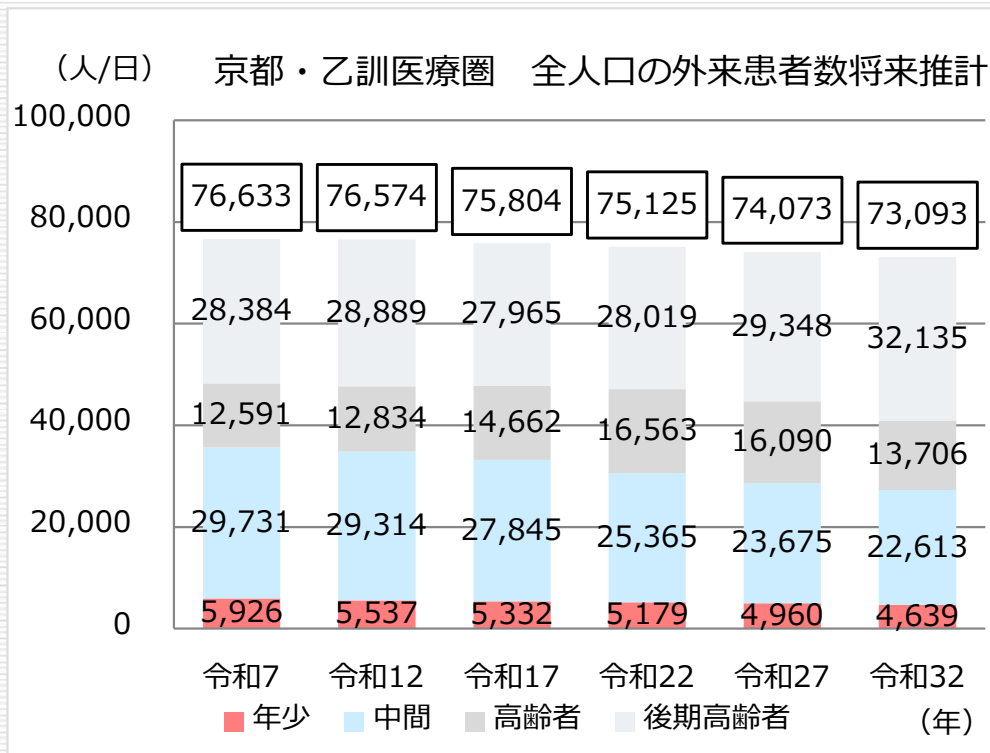
■ 出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 令和5年（2023年）推計」より

■ 出典：令和5年（2023年）患者調査（受療率（人口10万対），性・年齢階級×傷病大分類×入院-外来・都道府県別（入院）（厚生労働省保健統計室）

# 1. 基礎調査・分析の結果報告（外部環境調査）

## （8）京都・乙訓医療圏の外来患者数将来推計

- 京都・乙訓医療圏の将来外来患者数は、令和7（2025）年から令和12（2030）年にかけては横ばいで、令和17（2035）年から令和32（2050）年にかけて**減少**することが予測されます。
- 年少人口の将来外来患者数は、令和7年（2025年）の5,926人から令和32（2050）年の4,639人にかけて**約21.7%減少**することが予測されます。



■ 出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 令和5年（2023年）推計」より

■ 出典：令和5年（2023年）患者調査（受療率（人口10万対）、性・年齢階級×傷病大分類×入院-外来・都道府県別（入院）（厚生労働省保健統計室）

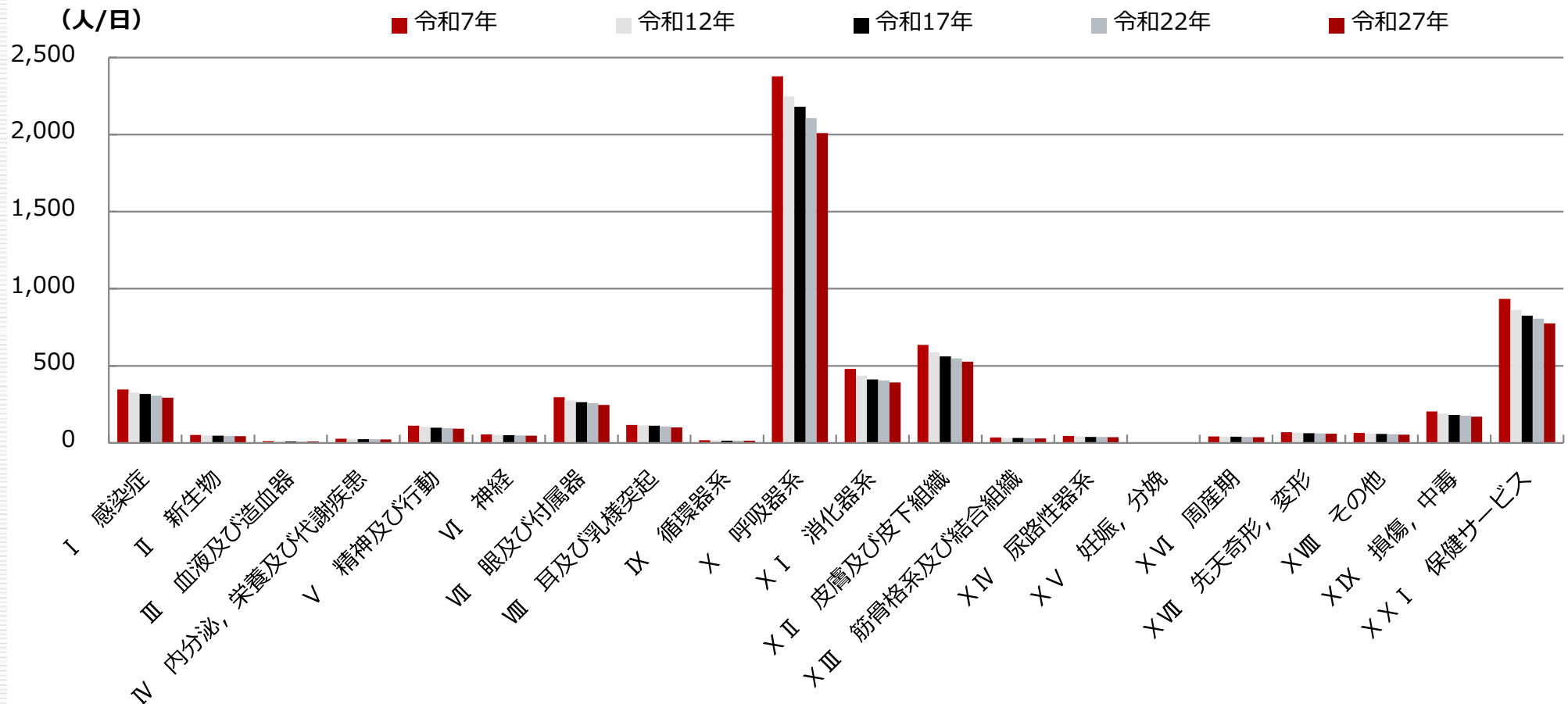
■ 小数点1位以下を四捨五入しているため、合計数に差異が生じている場合がございます。

# 1. 基礎調査・分析の結果報告（外部環境調査）

## （9）京都・乙訓医療圏の疾病分類別外来患者数予測（0～14歳）

- 京都・乙訓医療圏の疾病分類別将来外来患者数は、**全ての疾患において減少**、または、**緩やかに減少**することが予測されます。

【京都・乙訓医療圏 0～14歳 疾病分類別病院外来患者数予測】



■ 出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 令和5年（2023年）推計」より

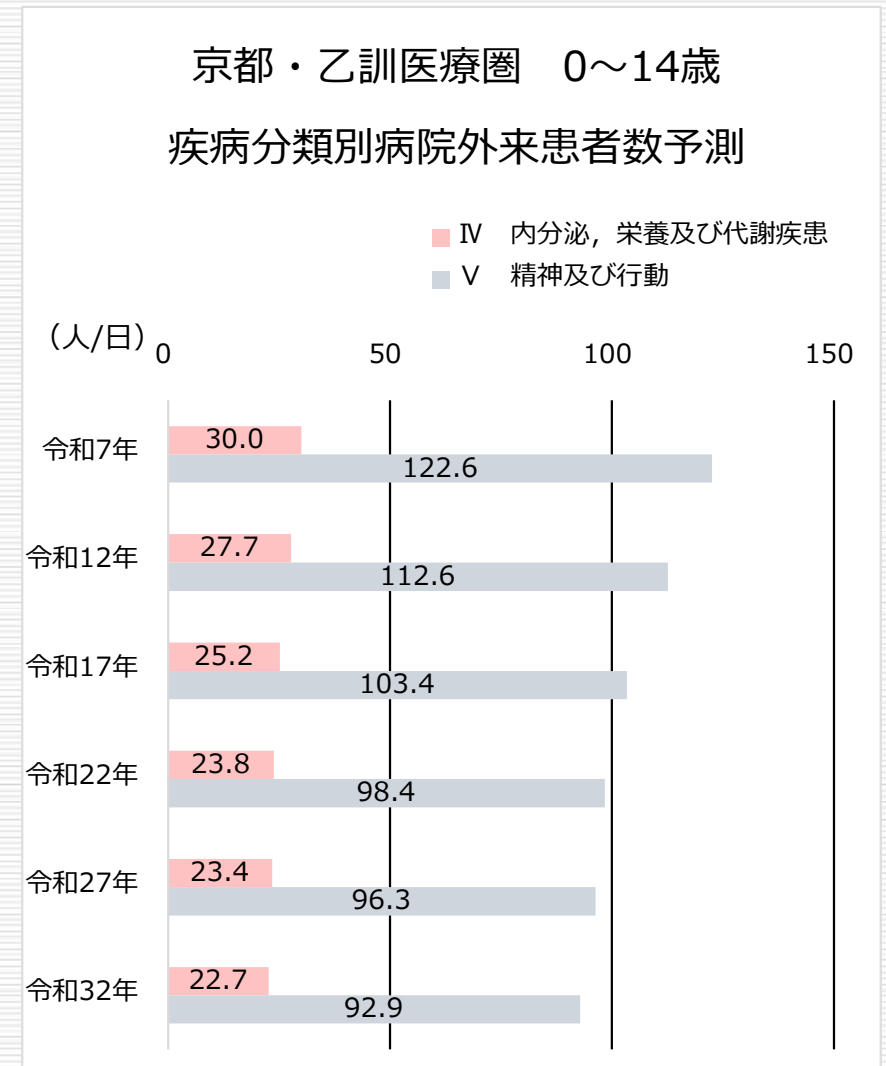
■ 出典：令和5年（2023年）患者調査（受療率（人口10万対）、性・年齢階級×傷病大分類×入院-外来・都道府県別（入院）（厚生労働省保健統計室）

# 1. 基礎調査・分析の結果報告（外部環境調査）

## （9）京都・乙訓医療圏の疾病分類別外来患者数予測（0～14歳）

- 桃陽病院で治療にあたる「**IV内分泌、栄養及び代謝疾患**」、「**V精神及び行動の障害**」の患者数の内訳は以下のとおりで、今後、**減少**が予測されます。

単位：人/日	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	30.0	27.7	25.2	23.8	23.4	22.7
甲状腺障害	1.8	1.6	1.5	1.4	1.4	1.3
糖尿病	1.9	1.7	1.5	1.4	1.4	1.4
脂質異常症	1.3	1.2	1.2	1.1	1.1	1.0
その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	25.7	23.7	21.5	20.3	20.0	19.4
V 精神及び行動の障害	122.6	112.6	103.4	98.4	96.3	92.9
統合失調症、統合失調症障害及び妄想性障害	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	3.0	2.8	2.5	2.3	2.3	2.3
その他の精神及び行動の障害	119.0	109.3	100.4	95.6	93.5	90.1



■ 出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 令和5年（2023年）推計」より

■ 出典：令和5年（2023年）患者調査（受療率（人口10万対）、性・年齢階級×傷病大分類×入院-外来・都道府県別（入院）（厚生労働省保健統計室）

# 1. 基礎調査・分析の結果報告（外部環境調査）

## （10）-1 外部環境分析（国保レセプトデータ：入院）

- 京都市に住む20歳未満の患者のうち、約84.0%（1,428人中1,199人）が京都市内の医療機関に入院しており、宇治市や長岡京市の医療機関が続いています。
- 京都府外の医療機関や調査の結果不明な患者は全体の約9.5%（1,428人中135人）であり、**大多数の患者は京都府内の医療機関**で診療や治療を受けています。
- 京都市内に所在する医療機関別患者数（右表）を見ると、実入院患者数は、京都第二赤十字病院、京都第一赤十字病院、京都府立医科大学附属病院の順に多くなっています。
- また、桃陽病院の入院患者は、0.3%（1,428人中4人）となっています。

【医療機関所在地別 実入院患者数】

医療機関所在地		実入院患者数（人）	割合
京都市		1,199	84.0%
その他 京都府内	宇治市	57	4.0%
	長岡京市	23	1.6%
	南丹市	4	0.3%
	向日市	3	0.2%
	城陽市	2	0.1%
	京田辺市	1	0.1%
	久世郡	1	0.1%
	亀岡市	1	0.1%
	その他医療機関（府内）	2	0.1%
	京都府外	大阪府	33
滋賀県		13	0.9%
兵庫県		2	0.1%
奈良県		1	0.1%
静岡県		1	0.1%
その他医療機関（府外）		64	4.5%
調査の結果不明		21	1.5%
総計		1,428	100.0%

【京都市内に所在する医療機関別患者数】

順位	医療機関名称	実入院患者数（人）	割合
1	京都第二赤十字病院	158	13.2%
2	京都第一赤十字病院	158	13.2%
3	京都府立医科大学附属病院	153	12.8%
4	京都市立病院	120	10.0%
5	国立大学法人 京都大学医学部附属病院	106	8.8%
6	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	92	7.7%
7	日本バプテスト病院	70	5.8%
8	医療法人医仁会 武田総合病院	48	4.0%
9	独立行政法人国立病院機構京都医療センター	40	3.3%
10	医療法人財団今井会足立病院 足立病院	34	2.8%
その他（n：40 最大32人、最小1人、平均5.5人、中央値2人、桃陽病院4人）		220	18.3%
合計		1,199	100.0%

# 1. 基礎調査・分析の結果報告（外部環境調査）

## （10）-2 外部環境分析（国保レセプトデータ：入院）

- 京都市に居住する20歳未満の患者について、患者の居住地（行政区）別に、受診先医療機関別の患者数を集計した結果を下表に示します。

1 北区			
順位	医療機関名称	実入院患者数（人）	割合
1	京都第二赤十字病院	33	33.3%
2	京都府立医科大学附属病院	23	23.2%
3	国立大学法人 京都大学医学部附属病院	8	8.1%
4	日本バプテスト病院	7	7.1%
5	医療法人仁愛会 川村産婦人科	3	3.0%
その他（16医療機関）		25	25.3%
合計		99	100.0%

4 中京区			
順位	医療機関名称	実入院患者数（人）	割合
1	京都第二赤十字病院	27	24.3%
2	京都府立医科大学附属病院	23	20.7%
3	国立大学法人 京都大学医学部附属病院	10	9.0%
4	京都第一赤十字病院	9	8.1%
5	京都市立病院	9	8.1%
その他（15医療機関）		33	29.7%
合計		111	100.0%

2 上京区			
順位	医療機関名称	実入院患者数（人）	割合
1	京都第二赤十字病院	27	31.4%
2	京都府立医科大学附属病院	15	17.4%
3	大阪医科薬科大学病院	11	12.8%
4	京都市立病院	7	8.1%
5	医療法人社団洛和会 洛和会丸太町病院	5	5.8%
その他（12医療機関）		21	24.4%
合計		86	100.0%

5 東山区			
順位	医療機関名称	実入院患者数（人）	割合
1	京都第一赤十字病院	27	62.8%
2	国立大学法人 京都大学医学部附属病院	5	11.6%
3	武田病院	2	4.7%
4	京都第二赤十字病院	2	4.7%
5	京都市桃陽病院	1	2.3%
その他（6医療機関）		6	14.0%
合計		43	100.0%

3 左京区			
順位	医療機関名称	実入院患者数（人）	割合
1	日本バプテスト病院	50	28.9%
2	京都第二赤十字病院	29	16.8%
3	国立大学法人 京都大学医学部附属病院	28	16.2%
4	京都府立医科大学附属病院	23	13.3%
5	医療法人社団順和会 京都下鴨病院	10	5.8%
その他（18医療機関）		33	19.1%
合計		173	100.0%

6 山科区			
順位	医療機関名称	実入院患者数（人）	割合
1	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	72	41.4%
2	京都第一赤十字病院	16	9.2%
3	京都府立医科大学附属病院	15	8.6%
4	国立大学法人 京都大学医学部附属病院	14	8.0%
5	医療法人医仁会 武田総合病院	14	8.0%
その他（21医療機関）		43	24.7%
合計		174	100.0%

# 1. 基礎調査・分析の結果報告（外部環境調査）

## （10）-2 外部環境分析（国保レセプトデータ：入院）

7 下京区			
順位	医療機関名称	実入院患者数（人）	割合
1	京都市立病院	14	20.0%
2	京都第一赤十字病院	10	14.3%
3	京都第二赤十字病院	8	11.4%
4	京都府立医科大学附属病院	6	8.6%
5	その他医療機関（府外）	6	8.6%
	その他（17医療機関）	26	37.1%
	合計	70	100.0%

8 南区			
順位	医療機関名称	実入院患者数（人）	割合
1	京都第一赤十字病院	25	69.4%
2	京都市立病院	14	38.9%
3	医療法人財団今井会足立病院 第二足立病院	8	22.2%
4	国立大学法人 京都大学医学部附属病院	6	16.7%
5	京都府立医科大学附属病院	5	13.9%
—	京都市桃陽病院	1	2.8%
	その他（19医療機関）	36	37.9%
	合計	95	100.0%

9 右京区			
順位	医療機関名称	実入院患者数（人）	割合
1	京都市立病院	41	24.0%
2	京都府立医科大学附属病院	20	11.7%
3	公益社団法人京都保健会京都市民医連中央病院	18	10.5%
4	国立大学法人 京都大学医学部附属病院	15	8.8%
5	京都第一赤十字病院	13	7.6%
	その他（25医療機関）	64	37.4%
	合計	171	100.0%

10 西京区			
順位	医療機関名称	実入院患者数（人）	割合
1	京都市立病院	18	22.2%
2	社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院	15	18.5%
3	京都府立医科大学附属病院	9	11.1%
4	京都第二赤十字病院	8	9.9%
5	京都第一赤十字病院	7	8.6%
	その他（13医療機関）	24	29.6%
	合計	81	100.0%

11 洛西支所			
順位	医療機関名称	実入院患者数（人）	割合
1	京都市立病院	9	21.4%
2	社会福祉法人恩賜財団京都府済生会京都済生会病院	7	16.7%
3	社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院	5	11.9%
4	京都第一赤十字病院	2	4.8%
5	国立大学法人 京都大学医学部附属病院	2	4.8%
	その他（13医療機関）	17	40.5%
	合計	42	100.0%

12 伏見区			
順位	医療機関名称	実入院患者数（人）	割合
1	医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院	37	59.7%
2	京都第一赤十字病院	22	35.5%
3	独立行政法人国立病院機構京都医療センター	17	27.4%
4	医療法人医仁会 武田総合病院	12	19.4%
5	社会福祉法人恩賜財団京都府済生会京都済生会病院	12	19.4%
—	京都市桃陽病院	2	3.2%
	その他（27医療機関）	62	37.8%
	合計	164	100.0%

13 深草支所			
順位	医療機関名称	実入院患者数（人）	割合
1	独立行政法人国立病院機構京都医療センター	12	24.0%
2	京都第一赤十字病院	10	20.0%
3	公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院	4	8.0%
4	京都府立医科大学附属病院	3	6.0%
5	独立行政法人地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	2	4.0%
	その他（14医療機関）	19	38.0%
	合計	50	100.0%

14 醍醐支所			
順位	医療機関名称	実入院患者数（人）	割合
1	医療法人医仁会 武田総合病院	19	27.5%
2	京都第一赤十字病院	11	15.9%
3	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	9	13.0%
4	その他医療機関（府外）	6	8.7%
5	医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院	5	7.2%
	その他（10医療機関）	19	27.5%
	合計	69	100.0%

# 1. 基礎調査・分析の結果報告（外部環境調査）

## （10）-3 外部環境分析（国保レセプトデータ：入院）

- 桃陽病院で治療を行う「IV内分泌、栄養及び代謝疾患」に含まれる「その他内分泌栄養及び代謝疾患（主に肥満症など）」に関しては、桃陽病院の**シェア率は比較的低い**傾向にあります。
- 一方で、「V精神及び行動の障害」に分類される「神経性障害やストレス関連障害」及び「その他の精神及び行動の障害」については、患者の母数は少ないものの、**一定の役割を果たしています**。

【IV内分泌、栄養及び代謝疾患における各医療機関の実入院患者数】

コード	疾病分類名	医療機関名称	実入院患者数（人）	割合		
401	甲状腺障害	医療法人財団今井会足立病院 足立病院	2	3.1%		
		京都市立病院	2	3.1%		
		医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院	1	1.6%		
		国立大学法人 京都大学医学部附属病院	1	1.6%		
		京都府立医科大学附属病院	1	1.6%		
402	糖尿病	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	1	1.6%		
404	その他の内分泌、 栄養及び代謝疾患	京都第二赤十字病院	15	23.4%		
		大阪医科薬科大学病院	10	15.6%		
		京都市立病院	7	10.9%		
		京都第一赤十字病院	6	9.4%		
		医療法人医仁会 武田総合病院	5	7.8%		
		京都府立医科大学附属病院	4	6.3%		
		京都市桃陽病院	1	1.6%		
		医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	1	1.6%		
		京都回生病院	1	1.6%		
		国立大学法人 京都大学医学部附属病院	1	1.6%		
		社会医療法人愛仁会高槻病院	1	1.6%		
		社会福祉法人恩賜財団京都府済生会京都済生会病院	1	1.6%		
		社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院	1	1.6%		
		その他医療機関（府外）	1	1.6%		
		調査の結果不明	1	1.6%		
		総計			64	100.0%

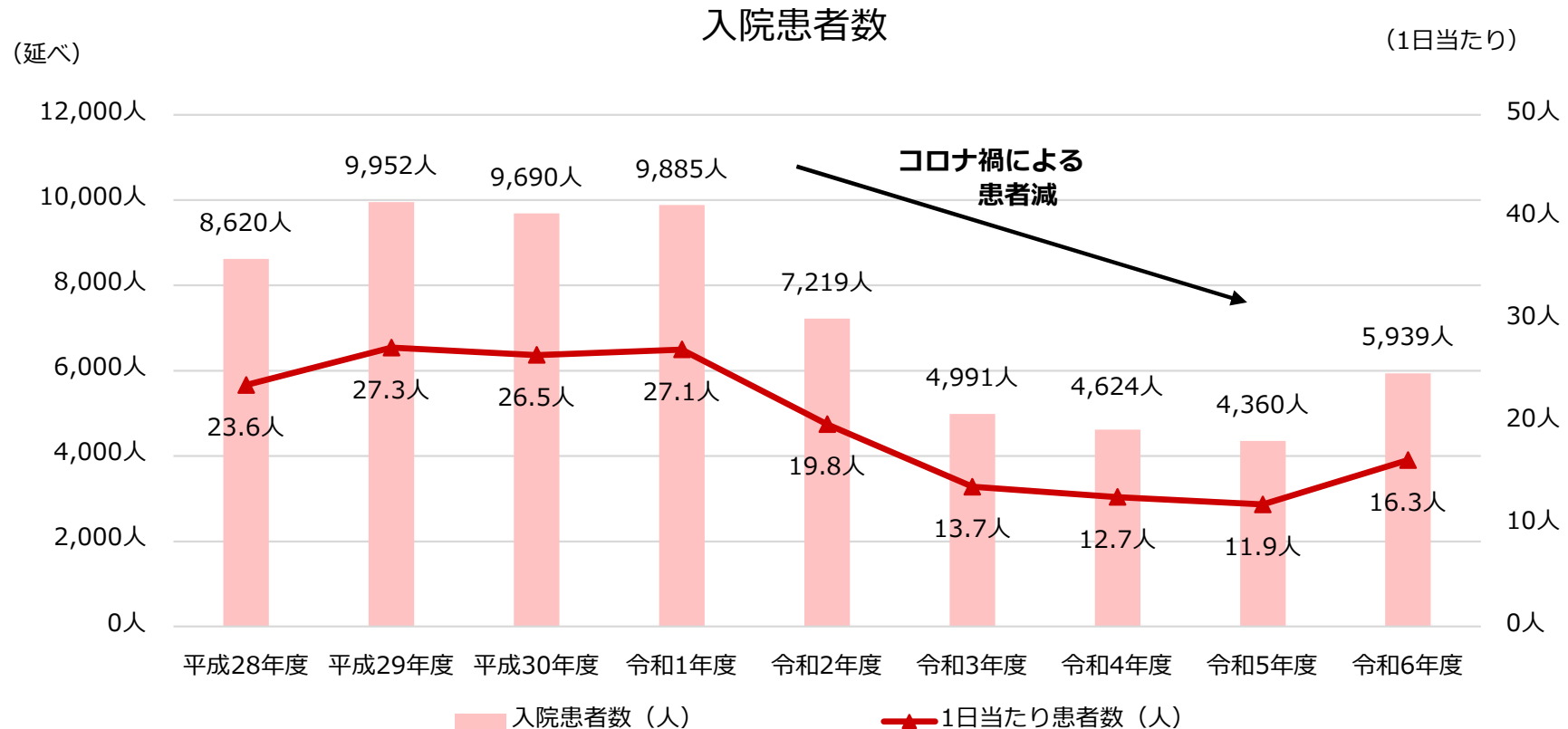
【V精神及び行動の障害における各医療機関の実入院患者数】

コード	疾病分類名	医療機関名称	実入院患者数（人）	割合
502	精神作用物質使用 による障害	医療法人医仁会 武田総合病院	1	4.5%
		公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院	1	4.5%
		医療法人社団洛和会 洛和会丸太町病院	1	4.5%
		医療法人同仁会（社団）京都九条病院	1	4.5%
		その他医療機関（府外）	1	4.5%
503	統合失調症、統合 失調症型障害及び 妄想性障害	京都府立洛南病院	1	4.5%
		医療法人栄仁会宇治おうぼく病院	1	4.5%
504	気分〔感情〕障害 （うつ病など）	一般財団法人長岡記念財団 長岡病院	1	4.5%
		医療法人稲門会 いわくら病院	1	4.5%
		医療法人栄仁会宇治おうぼく病院	1	4.5%
505	神経症性障害、ス トレス関連障害等	その他医療機関（府外）	1	4.5%
		京都市桃陽病院	1	4.5%
		地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪精神医療センター	1	4.5%
506	知的障害（精神遅 滞）	その他医療機関（府外）	1	4.5%
		国立大学法人 京都大学医学部附属病院	1	4.5%
507	その他の精神及び 行動の障害	社会医療法人大道会ホバース記念病院	1	4.5%
		京都府立洛南病院	2	9.1%
		医療法人稲門会 いわくら病院	2	9.1%
		京都市桃陽病院	1	4.5%
総計			22	100.0%

## 2. 基礎調査・分析の結果報告（内部環境調査）

### （1）入院延べ患者数

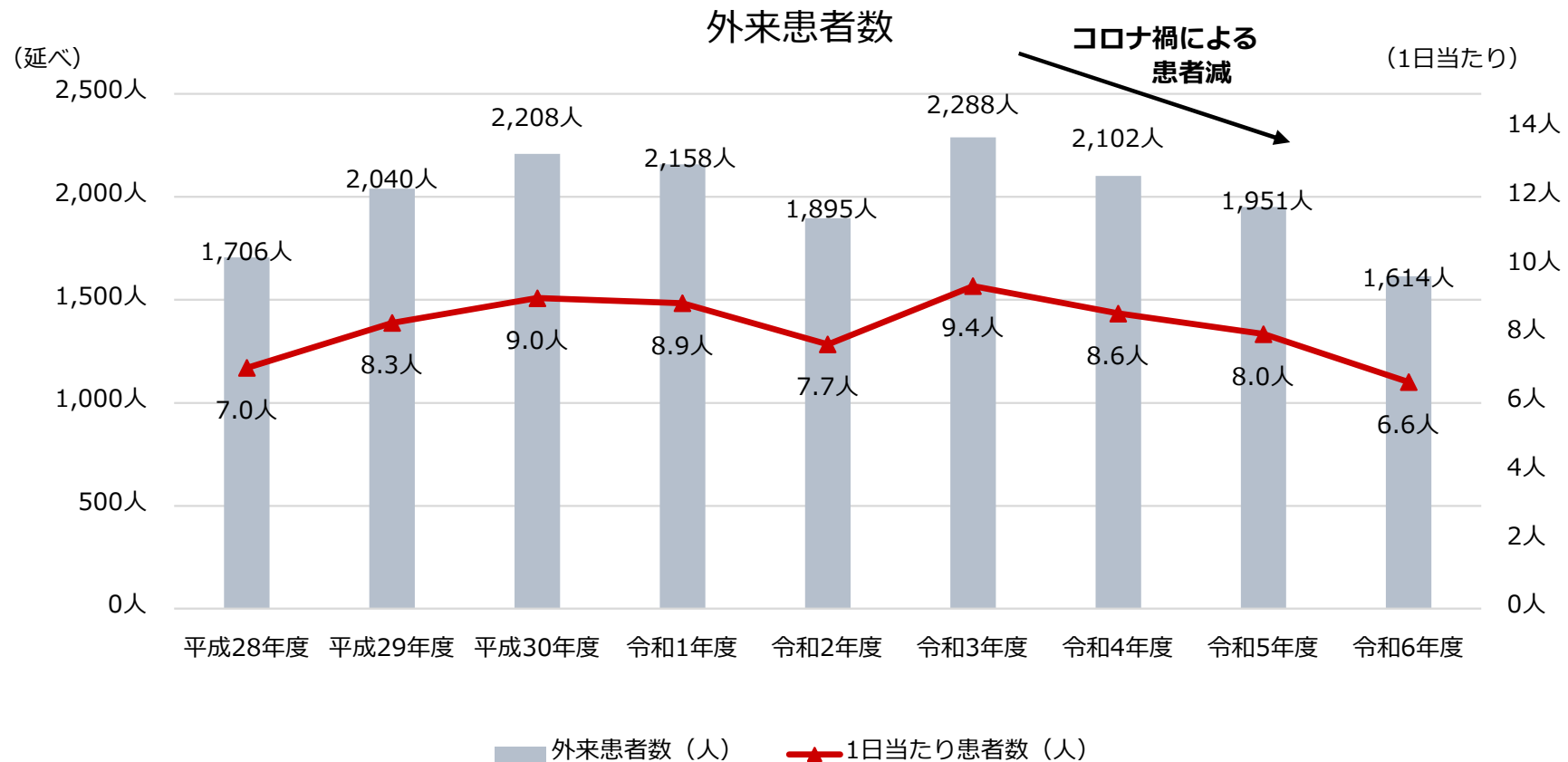
- 入院延べ患者数は、令和元年度まで約1万人の入院がありましたが、令和2年度のコロナ禍以降、**患者数が大きく減少**しています（令和6年度は5,939人と回復傾向）。
- 1日当たり患者数においても、令和元年度まで1日約27.1人の入院がありましたが、令和2年度以降、**減少**しています（令和6年度は16.3人と回復傾向）。



## 2. 基礎調査・分析の結果報告（内部環境調査）

### （2）外来延べ患者数

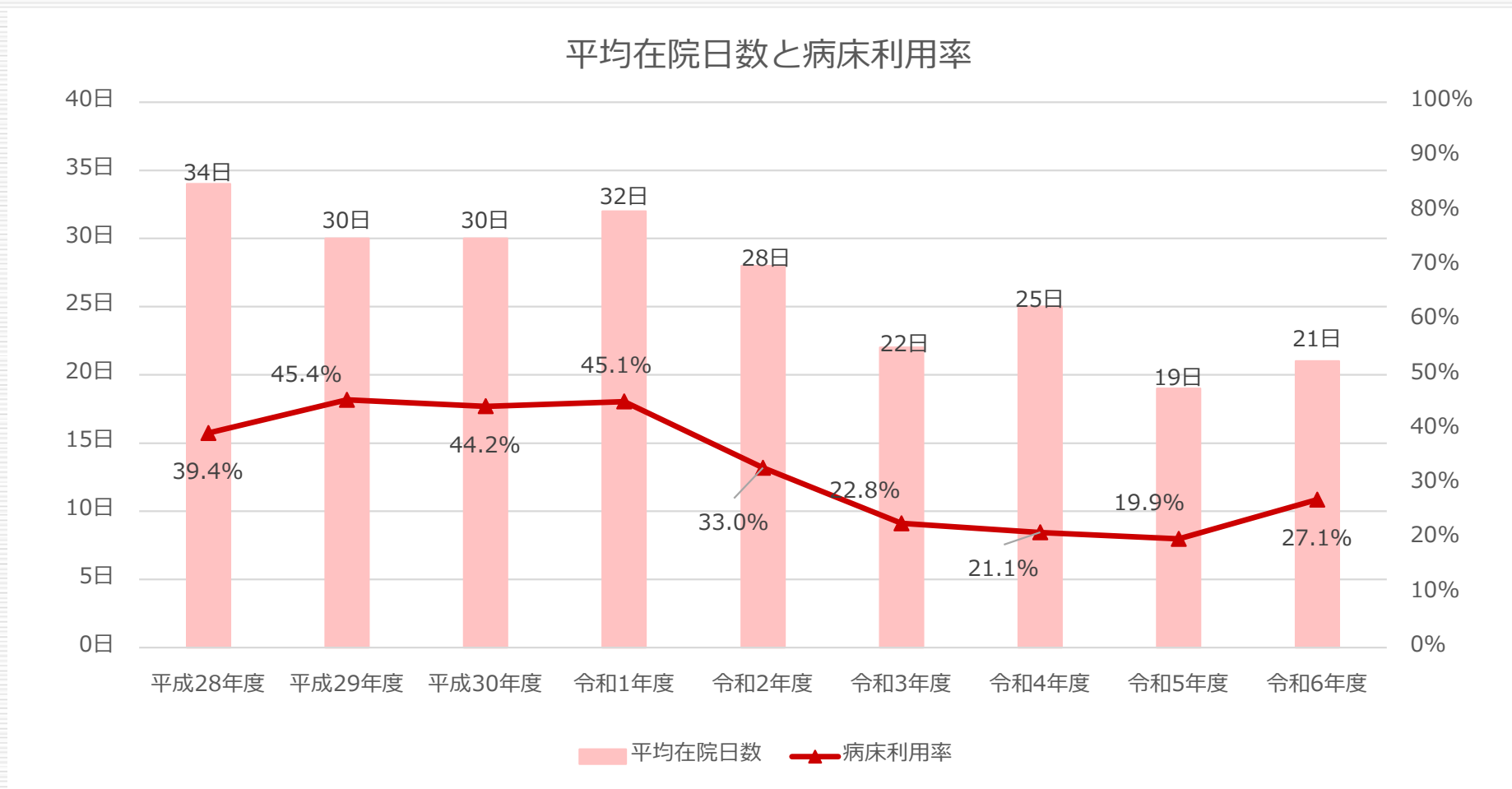
- 外来延べ患者数は、令和5年度まで2,000人前後で推移していましたが、令和3年度をピークに**減少**しています（令和6年度は1,614人）。
- 1日当たり患者数においても、令和5年度まで8人前後で推移していましたが、令和3年度をピークに**減少**しています（令和6年度は6.6人）。



## 2. 基礎調査・分析の結果報告（内部環境調査）

### （3）病床利用率と平均在院日数の推移

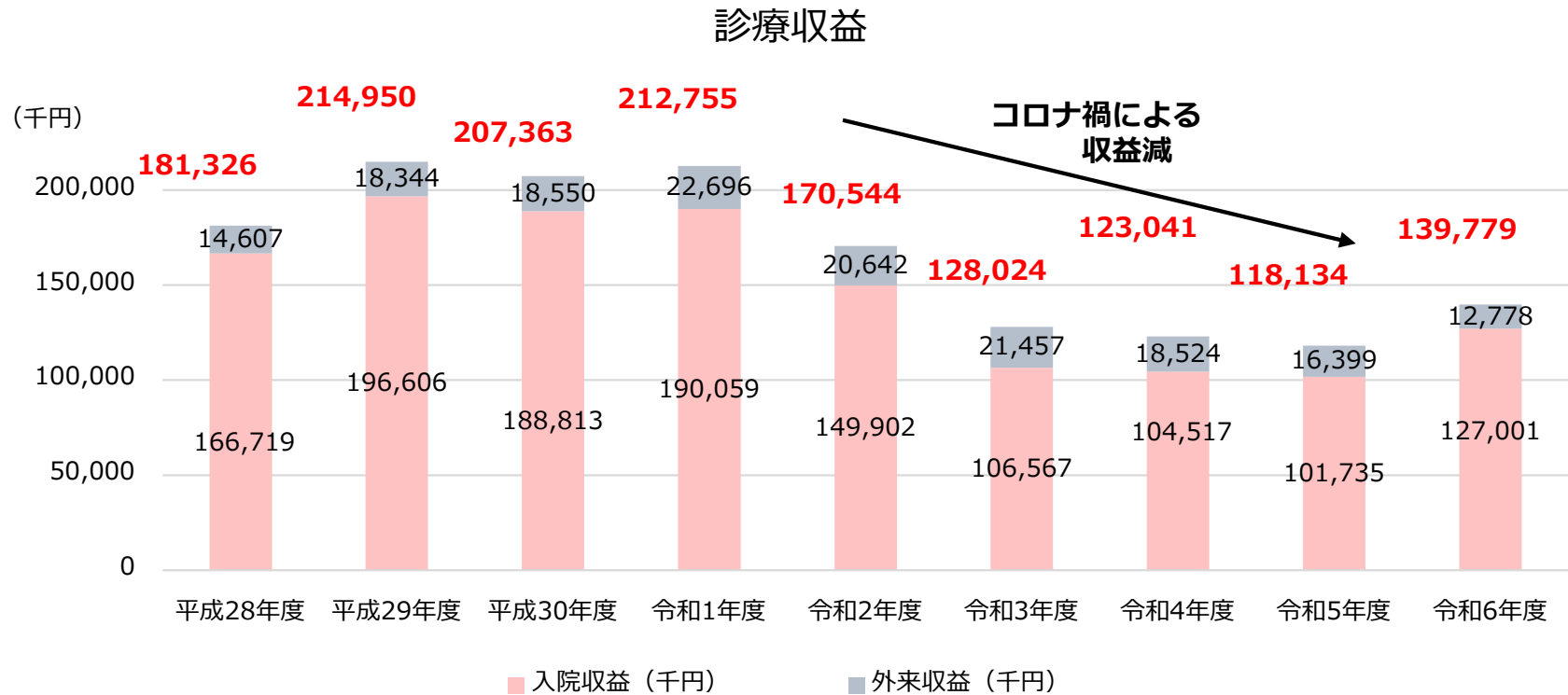
- 平成28年度以降、**平均在院日数は短縮**しており、令和6年度は21日となっています。
- 病床利用率は令和元年度までは40%台を推移していましたが、コロナ禍の令和2年度以降は、**20%台で推移**しています。



## 2. 基礎調査・分析の結果報告（内部環境調査）

### （4）診療収益（医事レセプトデータベースで計算）

- 令和2年度から令和5年度にかけて、**診療収益が大きく減少**しています。
- 令和6年度は入院患者数が増加しており、収益が若干、**回復傾向**となっています。



	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入院単価	19,341円	19,755円	19,485円	19,227円	20,765円	21,352円	22,603円	23,334円	21,384円
外来単価	8,562円	8,992円	8,401円	10,517円	10,893円	9,378円	8,812円	8,405円	7,917円

## 2. 基礎調査・分析の結果報告（内部環境調査）

### （5）入院患者特性＜平均入退院回数＞

- 桃陽病院には**桃陽支援学校の生徒（小中学生）**が入院しています。
- 1入院患者数（同一患者を含む入院患者数）は、年度によって異なりますが、185人～283人で推移しています。
- 一方で、実患者数（複数回入院を除く患者数）は39人～45人であるため、**1患者につき4回～7回入院**していると予測されます。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
延べ入院患者数(A) (=延べ入院日数)	7,219人	4,991人	4,624人	4,360人	5,939人
平均在院日数(B)	28日	22日	25日	19日	21日
1入院患者数(C) (A÷B)	258人	226人	185人	229人	283人
実患者数(D) (肥満スクール参加者除く)	39人	44人	45人	40人	39人
平均入院回数(E) (C÷D)	6.6回	5.1回	4.1回	5.7回	7.3回

○令和5年度、令和6年度の実患者数は、肥満スクール（3泊4日入院）のみの参加者は除いています。

## 2. 基礎調査・分析の結果報告（内部環境調査）

### （6）入院患者特性＜病名の推移（令和2年度～令和6年度）

- 精神疾患や発達障害、肥満症のある患者が、**全入院患者の約6～7割**を占めています。
- 令和3年度までは自閉症スペクトラム障害や注意欠陥多動障害を有する患者が多いですが、令和5年度以降は肥満スクール（3泊4日入院）を開始したこともあり、**肥満症や適応障害、不眠症を有する患者が増加**しています。

分類	疾患名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
慢性疾患	肥満症（肥満スクール含む）	5人	4人	3人	14人	14人
精神疾患	適応障害	5人	10人	10人	8人	7人
精神疾患	不眠症	2人	5人	8人	4人	6人
精神疾患	器質性人格行動障害	7人	7人	8人	8人	6人
精神疾患	不安障害	1人	5人	3人	3人	5人
発達障害	発達障害	5人	7人	6人	5人	3人
発達障害	注意欠陥多動障害	6人	9人	5人	5人	3人
精神疾患	うつ状態	2人	3人	6人	1人	2人
精神疾患	自閉症スペクトラム障害	8人	11人	4人	4人	1人
—	その他精神疾患・発達障害	16人	15人	23人	18人	10人
—	上記疾患のある患者数（A）	23人	30人	29人	35人	30人
—	実入院患者数（B）	39人	44人	44人	49人	51人
割合（A÷B）		<b>59.0%</b>	<b>68.2%</b>	<b>65.9%</b>	<b>71.4%</b>	<b>58.8%</b>

黄色：上位1位  
 橙色：上位2位  
 緑色：上位3位

複数疾患のある患者はそれぞれ1人として集計。実入院患者数は肥満スクール参加者を含む。

## 2. 基礎調査・分析の結果報告（内部環境調査）

### （7）入院患者特性＜住所地（令和2年度～令和6年度）＞

- 令和2年度から令和6年度に入院した患者（111人）の**約8割が京都市在住**です。
- 伏見区からの入院が最も多く、**全入院患者の32.4%（3人に1人）**を占めています。
- 次いで、山科区からの入院が多く、全入院患者の13.5%を占めています。

住所地 (京都市)	患者数	割合 (京都市)	割合 (全体)
伏見区	36人	40.4%	32.4%
山科区	15人	16.9%	13.5%
西京区	8人	9.0%	7.2%
南区	7人	7.9%	6.3%
右京区	7人	7.9%	6.3%
北区	4人	4.5%	3.6%
東山区	3人	3.4%	2.7%
中京区	3人	3.4%	2.7%
下京区	2人	2.2%	1.8%
上京区	2人	2.2%	1.8%
左京区	2人	2.2%	1.8%
<b>京都市合計</b>	<b>89人</b>		<b>80.2%</b>

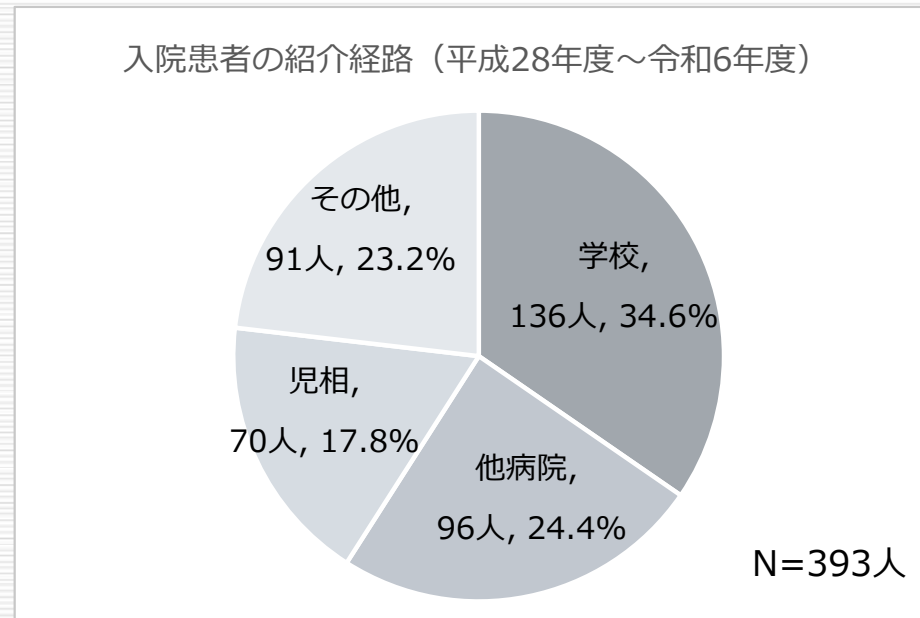
住所地 (京都市以外)	患者数	割合 (全体)
宇治市	6人	5.4%
福知山市	2人	1.8%
城陽市	2人	1.8%
木津川市	2人	1.8%
八幡市	1人	0.9%
南丹市	1人	0.9%
亀岡市	1人	0.9%
京田辺市	1人	0.9%
向日市	1人	0.9%
兵庫県	2人	1.8%
滋賀県	1人	0.9%
大阪府	1人	0.9%
合計	22人	

令和2年度～令和6年度の累計。集計時は、同一患者（重複）を除外。

## 2. 基礎調査・分析の結果報告（内部環境調査）

### （8）入院患者特性＜紹介経路（平成28年度～令和6年度）＞

- 入院患者の紹介経路は、**学校からの紹介が最も多く（35%）**、医療機関（24%）、児童相談所（18%）と続きます。
- その他は「家族、友人からの紹介」や「不明」が含まれます。



紹介先	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計
学校	23人	17人	24人	24人	14人	11人	5人	10人	8人	136人
他病院	6人	12人	16人	17人	8人	9人	9人	8人	11人	96人
児童相談所	5人	7人	13人	11人	11人	9人	7人	3人	4人	70人
その他	8人	4人	7人	10人	6人	7人	9人	17人	23人	91人
合計	42人	40人	60人	62人	39人	36人	30人	38人	46人	393人

## 2. 基礎調査・分析の結果報告（内部環境調査）

### （9）外来患者特性＜年齢構成＞

- 全ての年度において、**小学生の受診が最も多く（約3～4割）、次いで中学生が多い**です。
- 小中学生以外の受診も約3割※を占めています。

※桃陽病院は20歳未満が対象であるが、①過去に入院・外来受診していた患者、②家族等からの紹介で医師が判断した患者のみ通院。

年齢層	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
未就学児	9人	3.9%	13人	4.3%	15人	5.2%	16人	5.4%	10人	4.1%
小学生	82人	<b>35.8%</b>	109人	<b>36.5%</b>	105人	<b>36.5%</b>	129人	<b>43.6%</b>	97人	<b>40.1%</b>
中学生	58人	<b>25.3%</b>	74人	<b>24.7%</b>	61人	<b>21.2%</b>	58人	<b>19.6%</b>	58人	<b>24.0%</b>
16歳～19歳	29人	12.6%	43人	14.4%	39人	13.5%	28人	9.5%	19人	7.9%
20代	15人	6.6%	18人	6.0%	23人	8.0%	20人	6.8%	16人	6.6%
30代	6人	2.6%	6人	2.0%	9人	3.1%	12人	4.1%	6人	2.5%
40代	14人	6.1%	12人	4.0%	9人	3.1%	13人	4.4%	12人	5.0%
50代	10人	4.4%	14人	4.7%	14人	4.9%	12人	4.1%	16人	6.6%
60代	3人	1.3%	5人	1.7%	7人	2.4%	6人	2.0%	8人	3.3%
70代	3人	1.3%	5人	1.7%	5人	1.7%	2人	0.7%	—	—
80歳以上	—	—	—	—	1人	0.3%	—	—	—	—
<b>合計</b>	<b>229人</b>		<b>299人</b>		<b>288人</b>		<b>296人</b>		<b>242人</b>	

各年度、同一患者（重複）を除外して集計。

## 2. 基礎調査・分析の結果報告（内部環境調査）

### （10）外来患者特性＜受診病名（令和2年度～令和6年度）＞

- 小中学生は、**精神疾患や肥満症の受診が多い**です。
- 小中学生以外は、**風邪等の季節性症状やアトピー性皮膚炎**といった軽症の受診が多いです。

#### ＜小中学生（上位疾患）＞

主傷病名	患者数	割合
＜発達障害＞		
発達障害	74人	13.2%
注意欠陥多動障害	58人	10.4%
限局性学習症	47人	8.4%
自閉症スペクトラム障害	38人	6.8%
学習障害	31人	5.5%
＜精神疾患＞		
適応障害	35人	6.3%
不安障害	18人	3.2%
＜慢性疾患＞		
肥満症	48人	8.6%
その他の主傷病名	211人	37.7%
<b>合計</b>	<b>560人</b>	<b>100%</b>

#### ＜小中学生以外（上位疾患）＞

主傷病名	患者数	割合
＜風邪、インフルエンザ等＞		
急性上気道炎	28人	10.9%
新型コロナウイルス感染症	19人	7.4%
インフルエンザ	14人	5.5%
急性気管支炎	12人	4.7%
＜慢性疾患＞		
アトピー性皮膚炎	26人	10.2%
アレルギー性鼻炎	20人	7.8%
気管支炎	12人	4.7%
＜発達障害＞		
注意欠陥多動障害	8人	3.1%
＜精神疾患＞		
不安障害	7人	2.7%
その他の主傷病名	110人	43.0%
<b>合計</b>	<b>256人</b>	<b>100%</b>

令和2年度～令和6年度の累計。主傷病名が判明している患者のみを集計。

## 2. 基礎調査・分析の結果報告（内部環境調査）

### （11）外来患者特性＜住所地（令和2年度～令和6年度）＞

- 令和2年度から令和6年度に受診した患者（789人）の**約8割が京都市在住**です。
- **伏見区からの受診が最も多く、全外来患者の半数**を占めています。
- 伏見区に隣接している山科区、南区、宇治市からの受診も多いです。

住所地 (京都市)	患者数	割合 (京都市)	割合 (全体)
伏見区	441人	67.5%	55.9%
山科区	46人	7.0%	5.8%
南区	40人	6.1%	5.1%
西京区	33人	5.1%	4.2%
右京区	30人	4.6%	3.8%
左京区	18人	2.8%	2.3%
北区	12人	1.8%	1.5%
上京区	10人	1.5%	1.3%
中京区	10人	1.5%	1.3%
下京区	8人	1.2%	1.0%
東山区	5人	0.8%	0.6%
<b>京都市合計</b>	<b>653人</b>		<b>82.8%</b>

住所地 (京都市以外)	患者数	割合 (全体)
宇治市	44人	5.6%
長岡京市	42人	5.3%
向日市	12人	1.5%
八幡市	4人	0.5%
城陽市	3人	0.4%
京田辺市	2人	0.3%
木津川市	2人	0.3%
その他京都府	10人	1.3%
大阪府	8人	1.0%
滋賀県	3人	0.4%
その他都道府県	6人	0.8%
合計	136人	

令和2年度～令和6年度の累計。集計時は、同一患者（重複）を除外。

その他京都府：南丹市、亀岡市、福知山市、久御山町、大山崎町、和束町  
 その他都道府県：兵庫県、奈良県、東京都、千葉県、石川県

## 2. 基礎調査・分析の結果報告（内部環境調査）

### （12）決算状況

単位：千円

名称		令和4年度	令和5年度	令和6年度
1.	総収益	124,657	119,698	141,341
	（1）医業収益	124,013	119,060	140,640
	ア 入院収益	104,517	101,735	127,001
	イ 外来収益	18,524	16,399	12,778
	ウ その他医業収益	972	926	861
	（2）医業外収益	644	638	701
2.	総費用	372,373	382,516	393,351
	（1）医業費用	372,373	382,516	393,351
	ア 給与費	278,187	289,131	291,173
	イ 材料費	20,638	20,150	23,975
	ウ その他経費	73,548	73,235	78,203
	（2）医業外費用	0	0	0
3.	医業損益	△248,360	△263,456	△252,712
4.	経常損益	△247,717	△262,819	△252,010
5.	職員給与費比率	224.3%	242.8%	207.0%
6.	医業収支比率	33.3%	31.1%	35.8%
7.	経常収支比率	33.5%	31.3%	35.9%

○医業損益：【医業収益－医業費用】

○経常損益：【(医業収益＋医業外収益)－(医業費用＋医業外費用)】

○職員給与費比率：【職員給与費÷医業収益×100】

○医業収支比率：【医業収益÷医業費用×100】

○経常収支比率：【(医業収益＋医業外収益)÷(医業費用＋医業外費用)×100】

■ 出典：桃陽病院提供データを加工

■ 備考：数値は千円単位で四捨五入しているため、合計が表記上の数値と異なる場合があります

## 2. 基礎調査・分析の結果報告（内部環境調査）

### （13）まとめ

#### <入院>

- 平均在院日数は短縮により**入院延患者数は減少**しています。そのため、病床利用率も低下し、**空床が目立ちます**。（届出病床60床に対し、1日当たり12～16人の入院）。
- 入院対象は桃陽病院の小中学生であり、**精神疾患や肥満症のある患者が全体の6～7割**を占めています。（令和5年度以降、肥満スクールを開始）
- 令和2年度の新型コロナウイルス感染症流行以降、入院延べ患者が減少しましたが、**令和6年度は増加**に転じています。（**入院収益も同様**）

#### <外来>

- **患者住所地は、伏見区が半数**を占めており、隣接している山科区や南区、宇治市からの受診も多いです。
- **小中学生が患者全体の67%**を占めており、**精神疾患の受診が多い**です。
- 令和2年度の新型コロナウイルス感染症流行以降、**外来延べ患者が大きく減少**しており、それに伴って**外来収益が大きく減少**しています。

#### <決算>

- **毎年約2.5億円の赤字**となっています。
- 職員給与費比率が200%超と、**給与費が収益の2倍以上**となっていることが主な理由です。

# 3. 基礎調査・分析の結果報告（施設・インフラの分析）

## （1）既存施設と敷地の概要

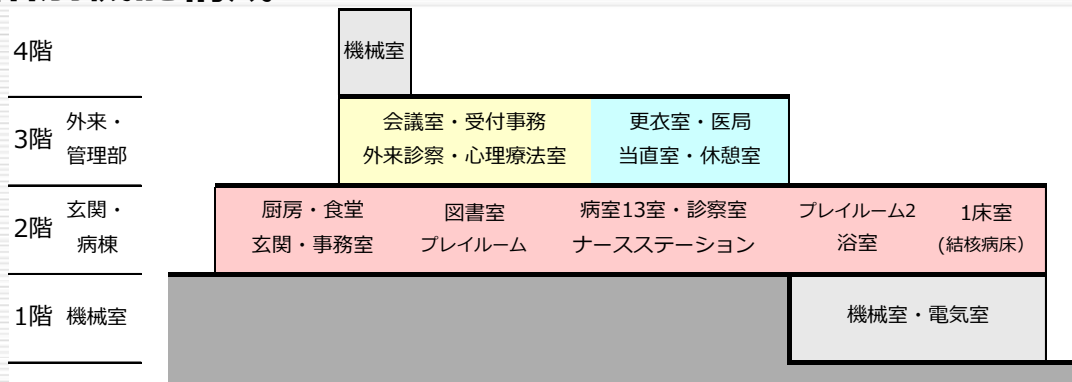
### 敷地概要

所在地	京都市伏見区深草大亀岩山町48-1
敷地面積	41,299㎡
用途地域	市街化調整区域
建蔽率/容積率	60%/200%
その他	保全区域、宅地造成等工事規制区域
	敷地内の平地部分は建屋等で利用されており、北側西側は隣地と近接している
	敷地内に桃陽総合支援学校が併設

### 建築概要

延べ床面積	4,571.12㎡
階数/構造	地上4階建て/鉄筋コンクリート造
竣工	1982年（築43年）
耐震性	新耐震基準のため耐震補強不要

### 階別機能構成



既存建物配置



### 3. 基礎調査・分析の結果報告（施設・インフラの分析）

#### （2）老朽化の現状と評価(中間報告)

性能	状況	補足
耐震性	<ul style="list-style-type: none"><li>既存建物は新耐震設計に基づく鉄筋コンクリート造の建物であり耐震性を有している。</li><li>築43年を経過しており、法定の減価償却年39年を超えている。</li><li>ただし、一般的に鉄筋コンクリートの物理的耐用年数は60年程度とされており、<b>継続使用できる可能性がある</b>と考える。（適切な躯体品質で適切な維持管理がされていれば60～80年は使用可能とされている。）</li></ul>	ただし、今後10年以上継続利用をするのであれば、躯体品質の調査を行うことが望ましい。
法適合	<ul style="list-style-type: none"><li>竣工時の<b>検査済証</b>もあり、当時の建築関連法規にもとづき適切に設計・施工され<b>竣工時の建築関連法上の法適合</b>が確認された。</li><li>ただし、竣工後建築基準法の改正が数度おこなわれており、<b>現行法規からみると不適合箇所もあるが、違法ではない</b>。ただし、今後既存に接続する形で一体的に増築した場合は現行法が遡及されるので遡及工事が発生する。</li><li><b>スプリンクラー設備</b>は1990年に設置されている。</li><li><b>アスベストの有無</b>についてはH17,H20,H31年に指定部位について抜き取り調査がされており「<b>無し</b>」と<b>報告</b>されているが、未調査箇所もあり注意が必要。</li></ul>	
敷地の制約	<ul style="list-style-type: none"><li>敷地は<b>市街化調整区域</b>であり、原則として建築工事は認められないため、増築を行う場合は行政協議が必要となる。</li></ul>	

### 3. 基礎調査・分析の結果報告（施設・インフラの分析）

#### （2）老朽化の現状と評価(中間報告)

評価項目	状況	補足
使い勝手	<ul style="list-style-type: none"> <li>病室は6床室主体で、個室は旧結核病床の4室のみであり、現在のニーズ（<b>個室要望</b>）に合致していないが、幸い稼働病床が少ないので、6床室を1～3人程度で使用している。また、旧結核病床の個室を利用している。</li> </ul>	既存の6床室を1床室2室にする等の改修は可能。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>男女のエリア分けをしたいという要望がある。現状はナースステーションを中央に左右にゾーンを分けをして使っているがトイレは分散していないので完全な<b>男女のゾーニング</b>ができていない。</li> </ul>	トイレを分散設置する等の改修は技術的には可能だが、詳細検討が必要。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>3階の外来ゾーンでは現在使用されていないX線撮影室や中央材料室、検査室等が倉庫となっている等、当初100床で想定されていたが現状の運用実態に応じて<b>未使用室やスペースの余剰</b>がある。</li> </ul>	
設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>2025年に2、3階の病室等居室部分49か所に賃貸借事業で個別制御が可能な<b>エアコンに更新</b>されている。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>結核(二類感染症)病床想定部分の病室は現行の第2種指定感染症病室の<b>施設基準を満たしていない</b>。(前室必要、陰圧、単独排気、室内にトイレ必要)</li> </ul>	同施設基準は厚労省通知、感染症法施行規則により1999年に施行。